

シリーズ・ひびきのケア

Our Care

1 一緒に食べる

在宅サポートセンター生田は、この4月で開設丸5年となりました。そこで、これまでの5年間、私たちがこだわり、かつ培ってきたケアの一つひとつを読者の皆様に紹介するコーナーを企画しました。題して「シリーズ・ひびきのケア」。初回のテーマは「一緒に食べる」です。

同じメニューを、同じ時間に、同じテーブルで、ともに食べることの意味。

●変わらない食事時の風景

デイサービス響やグループホーム響では、開設以来、変わらない食事時の風景があります。それはご利用者様と一緒にスタッフも食事をする、ということです。ごはんも味噌汁もおかずもデザートもおやつも同じものをご利用者様と一緒にいただきます。

●「する側」と「される側」

私たちが開設以来、変わらずに「一緒に食べる」ことにこだわってきた一番の理由は、介護する側の職員、される側の利用者といった、職員の「心理的な線引き」を取り除くことにあります。現場では、食事に限らず、職員がさまざまな準備をし、サービスを提供するため、どうしても「する側」「される側」という関係になりがちです。「一緒に同じものを同じ場所で食べる」ということで、利用者と職員の間にある一方的な関係を「対等の関係」に修正する心理的な効果につながります。スタッフのユニフォームがないのも同じ理由からです。



●「一緒に食べる」メリット

効果は心理的な面だけではありません。同じ料理を食べるわけですから、「おいしい」「まずい」「固い」「食べにくい」といった食材、メニューの状態をその場で評価でき、調理する側に的確に指示や依頼を出すことが可能となります。また、食事介助する場合、職員も食べながらケアすることで、介助される側にとって無理のない自然なペースでの食事が可能となります。もちろん、同じテーブルで同じ目線で食べるわけですから、むせこみなど、ご利用者様のトラブルや変化にもいち早く気づき、対応することができます。

これからも私たちは、「一緒に食べる」を通して、ご利用者様と「共にある」を実践していきたいと考えています。

デ

イサービス響 リリアン編みに挑戦

デイサービス響 5月レクは、春らしいパステル調の毛糸でティッシュボックスとスポンジカバーづくりに取り組んでいます。



グ

ループホーム響 若かりし頃を懐かしむ

グループホーム職員の石河秀さんが段ボールに描く日本画が大人気。晴れ姿の2人に、ご利用者様も、若かりし頃の自分を重ねて「懐かしい思い」に浸っています。



在宅サポートセンター生田 デイサービス響 空き情報 (平成23年4月末現在)

	月	火	水	木	金	土	日
6時間以上8時間未満 定員26人	○	○	◎	◎	◎	○	休
4時間以上6時間未満 定員4人				○		休	休
入浴	△	△	○	△	△	△	

◎=十分に空きがあります。○=空きがあります。△残りわずかです。空き情報につきましては、△の場合でもご相談ください。

●5月のカレンダー

- 5月01日 ひびき通信 5月号発行
- 5月11日 グループホーム運営推進会議
- 5月15日 グループホーム響ケースカンファレンス
- 5月22日 新しい介護セミナー Part2
会場：川崎市アートセンター・アルテリオ小劇場
小田急線「新百合ヶ丘駅」下車徒歩3分
- 5月26日 デイサービス響ケースカンファレンス